

会 議 録

1 会議名

平成 29 年度第 8 回高士区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 報告事項（公開）

・高士スポーツ広場について

(2) 高士の未来づくり懇談会について（公開）

(3) 自主的審議事項のテーマ設定について（公開）

3 開催日時

平成 29 年 12 月 12 日（火）午後 6 時 30 分から午後 8 時まで

4 開催場所

高士地区公民館 2 階 中会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委 員：青木正紘（副会長）、飯野憲静（会長）、飯野正美、金子和博、小林トシ子
建入一夫、中嶋真一、樋口義昭、日向こずえ、細谷八重子、横川英男
横山とも子

・体育課：白石副課長、鈴木主事

・事務局：中部まちづくりセンター 山田センター長、野口係長、田中主事

8 発言の内容（要旨）

【田中主事】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【飯野会長】

・挨拶

【田中主事】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【飯野会長】

- ・会議録の確認者：樋口委員
議題「(1) 報告事項について」体育課に説明を求める。

【体育課：白石副課長】

- ・挨拶
高士区地域協議会には平成28年11月に「高士スポーツ広場」の今後の取扱いについて説明させていただいた。その後、施設を利用している「上越リトルシニア」と「高士幼年野球」と意見を交わしてきて、概ねの方向性がでてきたので、今日、改めて説明する。
・資料No.1により説明

【飯野会長】

今の説明に質疑を求める。

【飯野委員】

知り合いに小学校のサッカーチームの関係者がいるが、高士スポーツ広場の跡地を利用する場合は、体育課に相談すればよいのか。

【体育課：白石副課長】

地域の団体が借りて、地域の子どもたちが使っていただければ無償になる。今は「高士幼年野球」と「上越リトルシニア」で相談しながら使い分けしているので、「高士幼年野球」と相談して、この日はサッカー、この日は野球というふうに使っていただいても全く問題ない。

【飯野委員】

高士区内のチームでないのだからどうか。

【体育課：白石副課長】

市の普通財産となるので、基本的に地域に貸し出しをして地域に使っていただくという流れになる。あくまで、地域に貸し出すので、高士区以外の貸し出しについては、地域の方から了解いただけるのであれば、可能性としてはあるかもしれない。だが、市立の施設ではなくなってしまうので、積極的に地域外の方に使っていただくという

ことは、少し難しいと思う。

【飯野委員】

もし、そういう利用ができるのであれば、高士地区体育協会に聞けばよいのか。

【体育課：白石副課長】

施設管理が高士地区体育協会になるかは、まだ決まっていないが、施設を借りる地域団体と「幼年野球」で相談していただくような感じになる。私どもが想定しているのは、地域に貸すので、地域の子どもを優先していただきたいという考え方である。

【飯野会長】

私どもでも、地域できちんとしたものを提案できず、皆さんに大変ご迷惑をかけた。建物を壊して更地にするということで、草刈りをしたり、木を伐採したりという管理はしてくださると思う。私自身の要望としては跡地に市の公共施設を造ってもらえれば一番よいため、要望したいと思う。民間団体に売却するにあたって、地域に不利益がないよう、我々の地域に馴染むような団体に売却してもらいたい。また、売却の話については、事前に高士地区振興協議会を窓口にして話していただきたい。

【体育課：白石副課長】

高士スポーツ広場の跡地だが、市では公有財産の空地がいろいろなところがあり、それをどのように利活用するかを検討する庁内会議が市役所で立ち上がっている。更地になれば、その会議のなかで、跡地はどうするかという話合いが行われる。ただ、市の空地は多数あるので、跡地に必ず何か建つということは確約できないが、検討の対象になることをご理解いただきたい。もし、売却という話になれば、当然地域に影響がでてくるので、必ず高士区地域協議会や高士地区振興協議会に話をする。今の仕組みでは、そういった場合は、地域協議会に諮ることになるので、必ず地域にはご相談させていただいたうえで、話を進めるということになる。

【飯野会長】

市有地で更地の場合は特に問題ないが、あそこに里道が何本か入っている。旧高士中学校跡地で公の土地だったので、今までは里道として通り抜けられたが、民間等に売却すると里道が途切れ、通り抜けができなくなる。

【体育課：白石副課長】

売却の話になっているが、何かしら高士スポーツ広場の跡地をかまうときは、地域協議会に諮るかたちになるので、その時に、影響がないように一緒に考えさせていた

できればと考える。

【横川委員】

更地にするのは結構だが、境界線がはっきりしていないので、管理をするにしても、その辺のところをはっきりしないと、お互いにまずいことになる。更地にする場合でも境界線をきちんと出すようにしてほしい。

【体育課：白石副課長】

分かった。更地にして管理をお願いすることにあたって、管理する区分をここからここというふうに確認しなければいけない。その際に、近隣の地権者の方と立会いをさせていただきたいと考えている。赤道みたいなものがあるのか。

【飯野会長】

3か所か4か所、入っていると思う。

【体育課：白石副課長】

いずれにせよ、市が管理するので1回立会いをしていただき、どこからどこまでを市が草刈りや管理をするのか確認をさせていただく。

【飯野会長】

改めて、1月に諮問されるので、そのときに協議会としてのご意見等あれば、その時にお願います。以上で報告事項は終了する。

— 体育課退席 —

【飯野会長】

「(2) 高士の未来づくり懇談会」について事務局に説明を求める。

【田中主事】

・資料No.2により説明

【飯野会長】

では、開催日程を決める。

— 日程調整 —

1月30日(火)午後6時30分からに決まった。対象者については、高士区の所属団体等に限定せず、住民からも参加してもらおう。町内会長には必ず出席していただき、無理な場合は代理の人を出席していただくことでよいか。

(「よし」の声)

意見交換の内容について事務局に説明を求める。

【田中主事】

・資料No.2 により説明

【飯野会長】

質疑を求める。

【建入委員】

昨年度は、地域協議会のメンバーで地域の人にチラシを配り、勧誘した記憶があるが今回はやらないのか。

【田中主事】

是非、声かけをしていただきたい。チラシが必要であれば、用意するので事務局に声をかけいただきたい。

【飯野会長】

各協議会委員に渡すチラシを作るのか、事務局に訪ねる。

【田中主事】

12 月中に活動団体と町内会長宛てに案内を出すので、その際に協議会委員にもチラシを郵送する。

【飯野会長】

これで「(2) 高士未来づくり懇談会について」は、終了する。

次に「(3) 自主的審議事項のテーマ設定について」事務局に説明を求める。

【田中主事】

・資料No.3、No.4 により説明

【飯野会長】

テーマを設定するにあたって、地域内、地域外に発信とあるが、まずは地域内のテーマとして、どのように設定するか委員に意見を求める。

【横川委員】

人口減少の抑制や他からの移住は高士区単独ではなかなか難しいと思う。古い家をリフォームして貸そうとしても高士区単独ではできない。団地を造るとしても、できるわけではない。高士区の良いところを発信しようとしても、土地が空いているのかどうか、その辺の暗いことばかり考えてしまう。誠に申し訳ないが、どうしたらいいのか分からない。

テレビ等を見ていると、子どもたちが住みやすいような公園等を市で整備すると、

子どもたちが引っ越して来たりすることもあるが、それを高士区単独でできるわけではない。他へ出ていかないようにするしかない。

【建入委員】

住環境で、住みやすさとか利便性の特化や魅力が何かについて、マンダラシートでいっぱい出ていた。未来像だけをどんどん言って、盛り上がっていてもよいが、そこでお金の話になってくると市が乗ってこないと駄目である。暗い話というか、言葉を出すにも先が思いやられる。

【横川委員】

企業誘致といっても、それだけの土地を確保できるのかとか、目先の心配ばかりになってしまう。だからといって、このままでよいということではないが。

【建入委員】

起爆剤になるような何か案を出していこうというのが、この会議なのだと思う。

【金子委員】

お金をかけずに、内か外かの発信の方法を決めるということでのよいのか。

【飯野会長】

具体的に何かをやるとしたらお金はかかると思う。

【金子委員】

と言うことは、こういうことをしたいから、こういうお金が必要だということを市にお願いするためのテーマなのか。

【田中主事】

自主的審議の流れとしては、1 つ大きなテーマを決めて、そこについて協議を深めていく。ゴールはそれぞれ分かれていて、市に意見書として提出し市政への反映を求める方法。また、地域活動支援事業を活用し、地域の団体がその問題の解決に向かってしていく方法もある。協議していく中で、課題が出てくるとは思うが、市で対応できるものと地域で対応できるもので整理し、それぞれの課題についてどのように解決していくかについても協議の中で進めていけばよい。

【横川委員】

ある程度ゴールを目指していかないと、どこへ行くのか分からないというのがある。地域協議会の中で、補助金を使ってやることもできるのだが、たった 490 万円の配分額で人口を 100 人増やせるのかは難しい話だと思う。

【飯野委員】

例えば、清里区の平成団地などは、私が高校生のころは田んぼばかりだったが、今は団地になった。きっかけは、どこからスタートしたのか。

【横川委員】

行政が主導である。

【金子委員】

清里村が上越市清里区になる前に田んぼを宅地造成し、予算をかけて団地を造った。宅地造成したので、後から人が増えたようである。

【横川委員】

今、清里体育館のある所は、元々は畑や雑木ばかりであった。私も畑を持っていたが清里村役場の人が出て、団地にするので売ってほしいとのことであった。高土区にそのような場所があるのかといえば、北方や南方の山の中にはあるだろうが、この辺は田んぼ等で利用されている。利用されていない土地はほとんどない。

【飯野会長】

高土スポーツ広場は今まで建物やグラウンドがあったが、更地になったときに近隣の畑や原野を含めて、再開発も考えられるかもしれない。

【横川委員】

本当にできそうな土地といえば、高土スポーツ広場の跡地しかない。

【金子委員】

校舎の裏側に畑があったが、市の土地なのか。

【飯野会長】

私の畑を貸していたのである。あの辺一帯は更地になれば、^{ぶどう}葡萄を作っている人もいるが今後も作り続けるのかも分からない。提案をしてもどのような返事が来るかは分からない。

【小林委員】

体育館の東側と南側は市の土地なので更地にすれば、かなり広くなるのではないかと。

【横川委員】

体育館も大きく見えるが壊して更地にしてしまえば、それ程広くはないと思うが。

【横山委員】

話を戻して、方向性としては、定住促進で地域の人を出さない方向にするのか、移

住促進で外から地域に呼ぶ方向にするのか。今言っている話のように、外から人を入れるには、かなり大きい話で、ここですぐどうこうできる話ではない。いくら場所ができて、魅力がなければ人は来ない。今、子どもがいる世代や、これから子どもを産む世代が外に出ないための方策として、内側からできることを考えたらどうか。

オーレンプラザができて、子どものいる世代に反響があるので、例えば、高士区の中で空き家を1軒提供していただければ、地域活動支援事業を利用し、空き家を綺麗にして、親子で何かイベントができるような場所をつくってみる。同じ場所に高齢者がお茶飲みに来たりできる場所を高士区に1か所作って魅力を出し、高士区から外に出ていかない人をつくっていく。その後から、中に人を入れていく方法がよいのではないか。ひとまず手を付けるには、そういうところから始めたらどうか。

地元にいる人間が面白いことをやって、自分たちが楽しめる場所があることが外に出ていかないことにつながるのではないか。若い人の意見を聞いてみなければ分からないが、高士区に楽しめる場所がないと、子どもを連れてどこかに行かなければいけない。子どもや高齢者が、何かしら集まれる場所をつくることから手を付けるのが「人口減少の抑制」としては早いのではないか。

【小林委員】

それには、まずは便利さが必要である。高士区だと車がなければどこにも行けないし、スーパーもない。ボランティアで年配の人が毎日弁当を運んでくれるものがあればよいという話があった。人が集まる場所を作っても交通手段がないと意味がないので、古い家を買って何かをするのは、あくまで理想である。

【飯野会長】

横山委員が言われたように、地域内か地域外からなのかだと、まずは小さいことからできる地域内でできることになると思う。今、弁当の話がでたが、今までお店をやっている、厨房がそのまま残っている所もあるので、そういうところを再利用することもできるのかもしれない。

【飯野会長】

それでは、地域内での取組という方向性でやるか、地域外という方向性でやるか。もしくは、両方やるかで決を採る。

地域内での取組を方向性にしたほうがよいという人は挙手願う。

(過半数挙手)

方向性は、地域内でやれそうなことで決まった。

【建入委員】

そうすると未来像が狭まってくるのではないか。方向性を決めることではよいが、広がりがないと思う。横山委員が先ほど言われたように、これだけの人口減を留めるには、何か核になるものを作り、外に高土区の魅力を発信するほうが大事だと思う。

地域をつくるためにお金が必要になれば、市に相談すればよいし、自分たちでここに良いものをつくっていくことが必要だと思う。子育て世代であれば、保育園も学校も近いので、これほど良いものはない。「森のようちえん」に行っている人もいるが、高土区も自然が豊かな保育園がある。そういう魅力を発信していくことが大事だと思う。

【横山委員】

定住促進ということで地域内ができることだと思ったのだが、同時にやっていけばよいのか。

【建入委員】

こだわっているわけではないが、魅力づくりが必要であり、その結果として、高土区がよいと言って残ってくれる方が増えればよいという考えである。

【金子委員】

人口減少の抑制で考えるならば、お年寄りが出ていくことは、ほとんどないが、若い人が出ていってしまうことが考えられる。若い人は、進学や結婚して出ていくのは分かるが、要は高土区に魅力がないから外にでることでもあると思う。横山委員の言ったような町屋で何かをすることは別だが、高土区で魅力を発信していくことがよい感じがする。

【横川委員】

高土区に魅力がないから街に出るのではなく、都会に憧れるようなもので、結局団地は便利だから、いろいろなところが近いから行くのだと思う。利便性を求めてわざわざ高い金を出して都会に行くのである。高土区に魅力がないわけではなく、都会は便利だから行くのだと思う。

【金子委員】

出ていかれる人は、いろいろな考えがあると思う。

【飯野会長】

テーマが決まらないが、次回に持ち越すのか。

【横川委員】

定住促進になれば、高士区に住んでいても魅力を知らない人も結構いるので、それを発信しながら、その情報が外に飛び出ればよいという考えでいったらよいのではないか。高士区は自然が豊富だが、自然目当てで来られる方がどのくらいいるか。

【飯野委員】

山を見たければ牧区に行けばよいし、高士区には目玉がないのである。

【飯野会長】

目玉が無いならば困っている筈なのだが、そんなに困っていない感じである。

【横川委員】

前にも言ったが、高士区の人には幸せすぎるのである。昔から頭の良い人、偉い人は高士区におられたと思うが、そういう人たちも多分考えてこられたと思う。今まで何の解決策もなく、ここまでこれだけの良い人間が出てきている。

【横山委員】

日向委員や中嶋委員のような若い人たちの周りの同級生が実際にどういう理由で外に出ていくのか。

【日向委員】

主人は山形の人であり、家を建てるのに高士区で土地を求めたが、なかった。最終的には私の親の敷地に家を建てることになったが、家を建てるまで半年もかかったのである。外部から来た人には高士区には家を建てる許可がされていない制約があるようで、市に申請するのに時間がかかった。農業のあとを継ぐ等の制約が5つくらいあり、家を建てるまで市と協議し、許可が出るまで半年かかった。高士区に空地がどのくらいあるのか分からないが、不動産として売っている土地の情報が必要である。私の地域で火事になったお宅の土地も安く提供されて、町から戻ってきた人が購入した。定住促進のためには情報発信しなければ、他からは入ってこない。

不動産として高士区に格安で提供してくれる土地があるかは、とても大切である。地元のことをもっと情報を集約して定住者を増やしていきたいとは思いますが、若い私たちは土地の情報等が分からない。

【金子委員】

土地の5項目くらいあるという制約は高士区だけなのか。

【日向委員】

旧上越市は都市計画区域で市役所近辺の春日山近辺等に家を建てることになっている。不動産として売ってればよい。

【飯野会長】

13 区の大部分が都市計画区域ではない。

【横川委員】

空地の場合、売れないし、持ち主の居場所も分からず、連絡も取れないところもある。

【飯野会長】

まずは、地域内の定住をどうするかということで発信をしなければ他の人が来ないという部分がある。また、都市計画の土地としての部分は市からも詳しいことを聞かなければ分からない。農業の場合は、長男で農業をやるから家を建てるというのは、よいのだが、農業が全く関係ないと家が建てられない。

【飯野会長】

時間もないがそれではテーマについて、どうするか。

【横川委員】

もう少し基礎的な勉強をしないと、色々な縛りがあれば、前に進めない。

【田中主事】

事務局から提案だが、これからどんなことを勉強していきたいかを協議し、勉強した後具体的な方向性を見出していくというのはどうか。

【飯野会長】

いいのではないか。ただ、都市計画の場合は、3 年ほど前に一度説明会をやっており、当時の町内会長は黙っていたのである。私は、高士スポーツ広場に行く途中の葡萄畑や原野等を解放してもらえれば家が建てられるということは言ったのだが、他は一切も話さなかった。

【金子委員】

それは面倒だから言わないのか。

【飯野会長】

市が市街化調整区域を見直しており、町内会長は希望を言えたと思う。私は、自分の町内のことは言えても、他の町内のことまでは言えない。

【横川委員】

事務局が言ったように、勉強しながら考えながら前に進めばよいのではないかと。

【飯野会長】

テーマとしては「人口減少の抑制」ということで、方向性については、研修を重ねていき決定していくということによいか。

(「はい」の声)

「4 その他」で、次回の協議会の開催について日にちを決める。

— 日程調整 —

- ・次回の協議会：1月16日（火）午後6時30分～ 高士地区公民館
- ・会議の閉会を宣言

【青木副会長】

- ・閉会の挨拶

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690（直通）

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。